

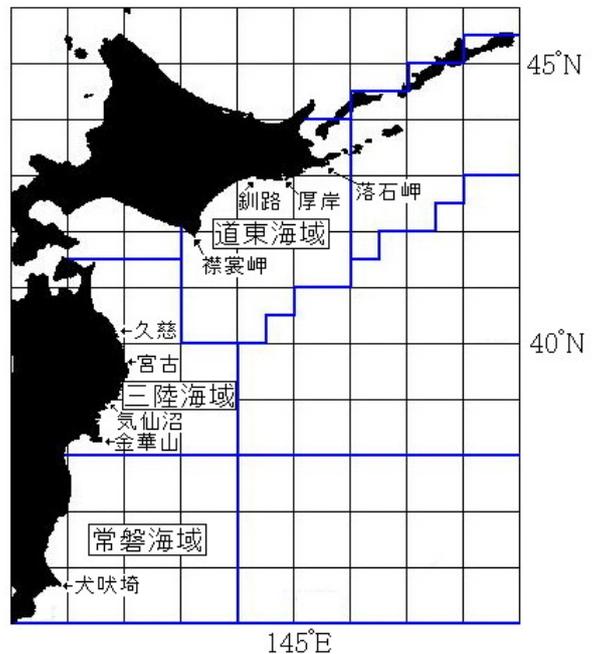
2024年度 第9回サンマ中短期漁況予報

－ 別表の水産関係機関が検討し一般社団法人漁業情報サービスセンターがとりまとめた結果 －

今後の見通し(2024年12月上旬～12月下旬)のポイント

来遊量

- ・道東海域では、来遊量は少なく終漁。
- ・三陸海域では、12月上旬の来遊量は低位水準である。
- ・常磐海域では、断続的な来遊があるが、来遊量は極めて少なく、漁場は形成されない。



海域の名称

問い合わせ先

一般社団法人漁業情報サービスセンター 水産情報部
担当：渡邊、源
電話：03-5547-6889、ファックス：03-5547-6881
当資料のホームページ掲載先URL
<https://www.jafic.or.jp/information/category/gyokyo/>

2024年度 第9回サンマ中短期漁況予報

1. 今後の見通し

予測期間：2024年12月上旬から12月下旬までの旬別

対象海域：道東海域、三陸海域、常磐海域

対象漁業：さんま棒受網漁業

対象魚群：南下回遊群

1) 道東海域

(1) 来遊量

来遊量は少なく、終漁となる。

(2) 漁場

漁場は形成されない。

2) 三陸海域

(1) 来遊量

12月上旬は、低位水準で推移する。12月中旬～下旬は、断続的な来遊となる。

(2) 漁場

12月上旬～中旬は、三陸中部～南部に漁場が形成される。12月下旬は、漁場は形成されない。

3) 常磐海域

(1) 来遊量

12月上旬～下旬は、断続的な来遊があるが、来遊量は極めて少ない。

(2) 漁場

漁場は形成されない。

2. 予測の概要

海 域		12月上旬	12月中旬	12月下旬
道東海域	来遊量	— →		
	動向	断続的		
	漁 場			
三陸海域	来遊量	————→	— →	— →
	動向	低位水準	断続的	断続的
	漁 場	中部～南部	中部～南部	
常磐海域	来遊量	— →	— →	— →
	動向	断続的	断続的	断続的
	漁 場			

3. 漁況の経過概要（11月中旬）

1) 道東海域

(1) 来遊量

道東海域では、襟裳岬沖に一時的に漁場が形成された。大型船で1日1隻あたり最高で10トン程度漁獲し、平均7.2トンであった。CPUE（1網あたりの漁獲量）は、11月上旬並みで、前年並みであった。

(2) 漁場

道東海域では、襟裳岬南70～110海里に漁場が形成された。

襟裳岬南70～110海里の漁場水温13～16℃では、11月14日夜に大型船数隻と小型船が操業し、大型船で最高10トン、平均7.2トン漁獲した。

(3) 魚体

道東海域では、体長27～30cmが主体、体重は80～120g台が主体であった。

2) 三陸海域

(1) 来遊量

三陸海域では、大船渡沖と釜石～宮古沖に漁場が形成された。大型船で1日1隻あたり最高で25トン程度漁獲した船もあったが、平均6.2トンであった。CPUE（1網あたりの漁獲量）は、11月上旬を上回り、前年を上回った。

(2) 漁場

三陸海域では、大船渡東55海里と釜石～宮古東沖の20～110海里に漁場が形成された。

大船渡東55海里の漁場水温22℃では、11月11日夜に大型船2隻が操業し、最高1.5トン漁獲した。

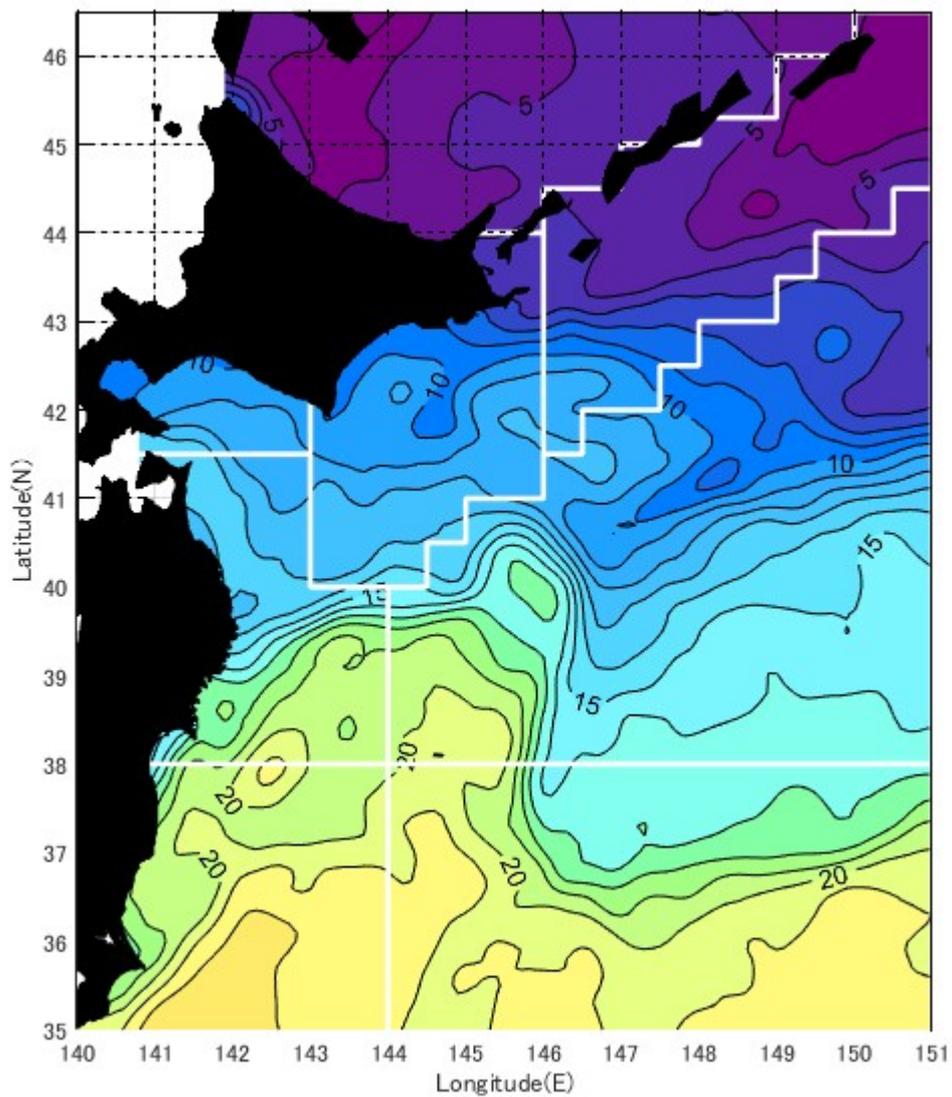
釜石～宮古東沖の20～110海里の漁場水温13～17℃では、大型船数隻～40隻程度と小型船が操業し、大型船で最高25トン、平均6.3トン漁獲した。

(3) 魚体

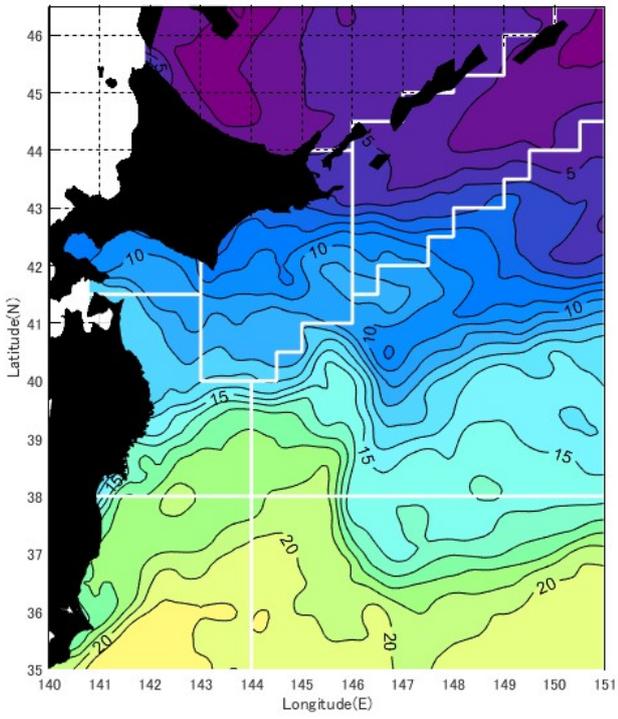
三陸海域では、体長27～30cmが主体、体重は80～120g台が主体であった。

4. 予測水温分布図

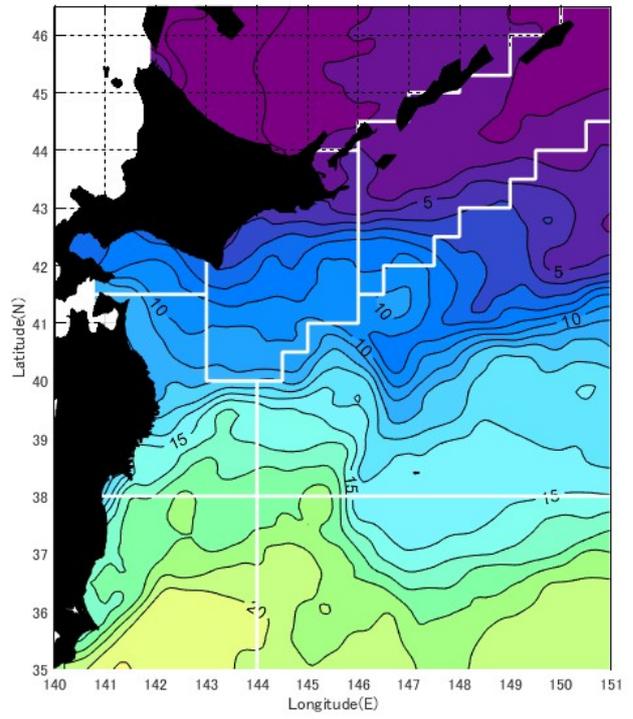
12月上旬予測表面水温分布図



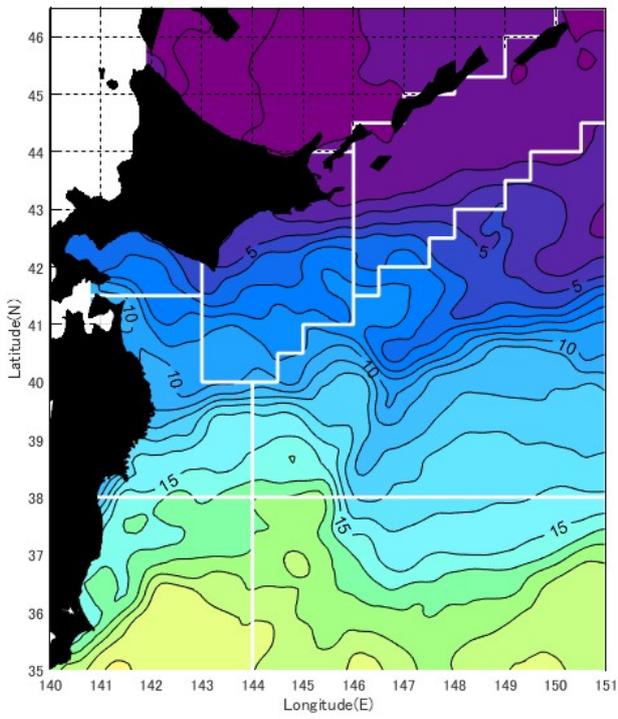
12月中旬予測表面水温分布图



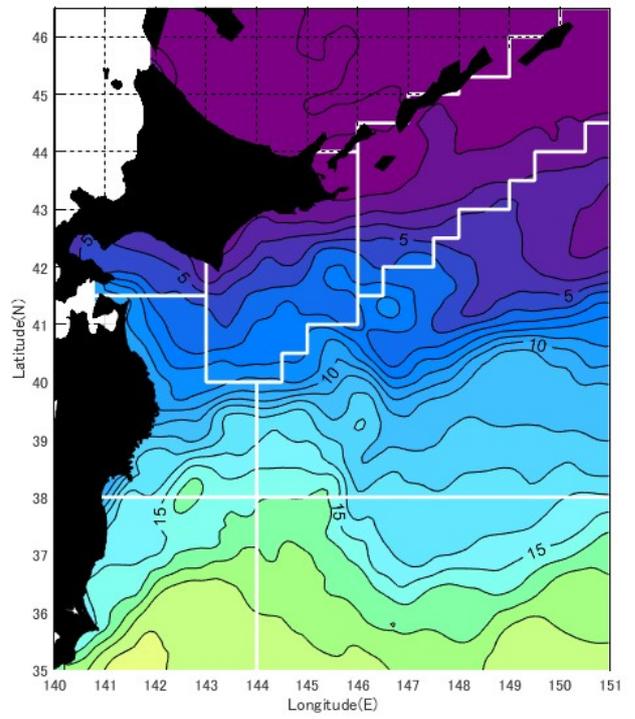
12月下旬予測表面水温分布图



1月上旬予測表面水温分布图



1月中旬予測表面水温分布图



参 画 機 関

<p>地方独立行政法人 北海道立総合研究機構 水産研究本部 釧路水産試験場</p> <p>岩手県水産技術センター</p> <p>宮城県水産技術総合センター</p> <p>福島県水産海洋研究センター</p>	<p>茨城県水産試験場</p> <p>千葉県水産総合研究センター</p> <p>国立研究開発法人 水産研究・教育機構 水産資源研究所</p> <p>(取りまとめ機関) 一般社団法人 漁業情報サービスセンター</p>
--	---